

放的になり誰もが自由に出入りが出来、子供たちの環境としても良いだろうと考えたからです。その他の特徴としては、板の間、廊下、トイレの床の仕上げ材に竹の集成材を用いたことです。傷がつきにくく、汚れにくく、水にも強いので子供の活発な活動に最適です。また、和室の畳は、藁床の本畳を用いています。さらに、天井板、壁板、腰板は全て杉の無垢板で張り物

このように室内環境を構成する床、壁、天井は、木、土、草の自然素材で仕上げています。自然素材は呼吸していますので、湿気が多いときは湿気を吸い取り、乾燥している時は水分を吐き出して室内の環境を人にやさしく健康的に保ってくれます。

このように子供が育む空間の設計で意識したことは、第一に体にやさしく健康的な空間であること、二つ目は美しく楽しい空間であること、三つ目は長持ちして何時までも飽きの来ない空間であることです。そして子供の視線と感性を最も大切に考えたことです。

七、八歳頃までの幼少年期に育った教育や家の中や遊び場の環境が自己形成空間として、深層意識の中に固着

され、その人のその後の生涯を決定づけると言われています。

また、その心象風景は後年になればなるほど不思議な懐かしさを持って思い出されます。

卒園児が小羊チャイルドセンターの教育とこの建物の環境を懐かしく思い、年長になっても時々集まってくる憩いの場になることを願っています。

